



最高賞受賞!!

第70回青少年読書感想文 岩手県コンクール

5年高橋茉愛さんが、標記コンクール小学校高学年の部自由図書の区分で、最高賞である「最優秀賞」を受賞しました。なかなか受賞できる賞ではなく、非常にすばらしく輝かしいことです。おめでとうございます!!

本人と保護者から了承いただきましたので、下記に受賞作品を掲載いたします。

「魔女だったかもしれないわたし」を読んで

不動小 5年 高橋 茉愛

この本は、自閉症の女の子アディが主人公のお話です。私には、アディと同じ特性のある、中学生の兄がいます。もしかするとアディと兄は似ているところがあるのかもしれませんが、兄という困っていると感じたことはないけれど、この本を読んだら、もっと兄のことを知ることができるかもしれないと思い、この本を選びました。

アディは、学校の授業で「魔女狩り」という歴史を学びます。それは、昔に本当にあったことで、人と少し違っているという理由で魔女と呼ばれ、処刑された人達がいたということでした。私は、世界中のあちこちで、このような人がたくさんいたことを知り、心がいたくなりました。人と少し違っているだけで処刑されるなんて、個性なのに、そんなのひどいと思ったからです。

その授業の時、アディは友達から、「アディは、その時代に生まれていたら、魔女だと言われて殺されていたかもね。」と言われてしまいます。人と違っていることは、いけないのかなと、この場面が、私は一番心に残り、考えてしまいました。

私の兄は、みんなと同じように中学校に通っています。私には分からない、こだわりたいなことがあるけれど、そんなことはみんなあるだろうし、人と違うと思ったことはないです。それよりも、みんなよりすごいと思うことがたくさんあります。計算は速いし、一度見た漢字は記憶して忘れません。かるたも、絵を描くのも上手で、私よりもとくいなことがあるかもしれません。でも、そんなすごいことも、昔なら人と違うと言われたのかもしれないと、不思議だなと思うし、悲しい気持ちにもなりました。

もしかしたら、みんなと同じように見える兄も、みんなの普通に合わせて、がんばっているのかもしれませんが。今の時代は魔女なんて呼ばれないけれど、アディみたいに、みんなと違わないように、目立たないようにしているのかもしれませんが。

私も、周りを気にしたり、多い意見に合わせてたりしてしまいます。正しいか分からないのに、みんなと違う意見は言わない方がいいと、感じるのかもしれませんが、けれど、

少数派の意見の方が大事なこともあるのかもしれないです。

この本を読んで、普通ってなんだろうと思いました。多数決で多い答えが普通なのか、みんなと同じなら普通なのか。普通だったら良いことで、正しいことだとしたら、みんな同じでつまらないなと思いました。

どれが正しいかではなくて、みんなと違っていても、分かり合えるような関係があったら良いなと、この本から学びました。

違ってるところがあっても、みんなで分かり合えて、みんなが幸せにくらいしていける未来になりますように。

M O A美術館岩手県北児童作品展入賞者紹介

標記作品展に3・4年生から8人の作品を出品しました。作品は、授業中や夏休み中に取り組んだ絵画です。来年度以降も出品する人が増えることを期待しています。

賞	学年	氏 名	作 品 名
銀賞	4年	中軽米 隼之介	岩手山
銀賞	3年	藤 原 ゆず花	花がおどっている
銅賞	3年	山 崎 華	黄色と黄緑がいっぱいの島

入賞した3名のみなさん、おめでとうございます。



の行事予定

丸数字は、
学年を表しています。

日	月	火	水	木	金	土
			1 元日	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13 成人の日	14	15 3学期始業式	16	17	18
19	20	21 委員会活動 (③見学)	22 ⑥町長と「矢 巾の未来」を 語る会	23	24	25
26	27	28 児童朝会	29	30	31	